

2010.10.15 / Vol. 31

1880年代教育史研究会 ニュースレター

第 31 号

目 次

[連載]

- 神辺 靖光「学校をめぐる逸話と風景（5）
共立学校創立」…………… 2
- 田中 智子「大阪府立商業学校の設立（3）」…………… 3

[個人研究]

- 鄭 賢珠「服部一三の海外出張（1）」…………… 4
- 小宮山 道夫「九州地区尋常中学校史料調査報告（その1）」… 6
- 富岡 勝「帝大寄宿舍に関する読売新聞記事」…………… 7
- 谷本 宗生「『官庁往復』（1899年）の目次（抄）
—帝国大学体制を考える手がかり—」…………… 8

[紹介]

- 富岡 勝「「教育史研究用カードノート」の試み（その2）」… 11

- [お知らせ]…………… 12

[連載] 学校をめぐる逸話と風景 (5)

共立学校創立

神 辺 靖 光

高橋是清が引き受ける前、つぶれかかったこの共立学校ができたいきさつを語ろう。

駿河の郷土に佐野鼎という人がいた。洋楽を学んで西洋砲術にくわしいことから加賀前田家に呼ばれて家臣となった。幕末の加賀藩は洋式軍隊の編成に熱心で、彼は砲術師範になった。その頃、幕府が日米修好条約批准のための使節を派遣するという情報が金沢にも聞こえてきた。佐野は矢も盾もたまず、これに随従したいと藩主・前田斎泰に願いでた。斡旋する者があって、幕府の許可が下り、使節の従僕という形式で、この万延遣米使節の一行に加わり、アメリカに渡った。前田侯は佐野に百両の仕度金を渡している。アメリカでの佐野の見学と勉強はすさまじく、彼の地の新聞種になるほどであった。以上の事は佐野が書いた「万延元年訪米日記」金沢文化協会出版（1956年、原本は金沢市・加越能文庫にある）にくわしい。

佐野はアメリカのあらゆる文化施設、機械に関心を持って見学を続けたが、ある時、ニューヨークの聾学校に入って感銘を受けた。文明国では聾者にまでコトバを教える。これが、佐野が帰国して英語学校をはじめめる動機であった。佐野はその後各国を巡って帰国するのだが、共立学校創立に話を飛ばそう。

明治維新後、佐野は陸軍の造兵司頭になった。東京・水道橋駅の北側にあった造兵廠の長官である。しかし彼はニューヨークでみた聾学校での感動が忘れ難く、懇意にしていた元加賀藩の蔵元・辻金五郎と同僚の加賀藩出入の米仲買人・茅野茂兵衛に英語学校創立を持ちかけた。この茅野茂兵衛が高橋是清の言う茅野老人

である。高橋は茅野の家に下宿していた。

三人は相談して神田淡路町の空地 1 万坪を買い、1 千坪の校舎を建てた（『東京開成学校校史資料』）。しかし調べてみると、この土地は元加賀藩の下屋敷の一つ、筋違屋敷と呼ばれていた所らしい。加賀藩の上屋敷は現東京大学の敷地である。中屋敷は駒込屋敷、下屋敷は平尾屋敷と呼ばれるものだが、この外、深川、永代橋の側に江戸蔵屋敷があり、神田淡路町に筋違橋屋敷というのを持っていた。筋違橋と言うのは現在の東京・御茶の水駅の東に架る聖橋にあった橋で相生橋とも言った。「明治四年、大東京絵図」で見ると淡路町二丁目、現在のニコライ堂附近がそれで、空地になっている。これが前田家の下屋敷の一つ、筋違屋敷跡である。共立学校は加賀藩主・前田家と深い繋がりのできたのである。

共立学校社中 20 名の中には華族・前田慶寧（加賀前田家当主）の名がある。筆頭にその名がなく、中ほどにさりがなく書かれた名が、この時期の風を現わしている。多くは町方地主であるが、後に大実業家になる大蔵喜八郎（この頃は神田で銃砲店を開いて儲けていた）、フランス人マルシャンを雇って始めての西洋靴工場・桜組をつくった西村勝三（房州佐倉藩士だったので桜組という）の名が目につく。しかし、この社中の中心は蔵元・辻金五郎（八五郎）と春米屋茅野茂兵衛である。蔵元とは各藩が江戸に置いた米蔵を管理する者である。江戸初期は藩の武士がやったが、次第に町人にやらせるようになった。米蔵には廻送されてきた藩米が入っている。江戸定府の藩士や参勤交代で江戸

にきた武士は、蔵元から切米（年俸）、扶持米（月俸）を知行に合わせて受取るのである。江戸藩邸には大名、江戸家老はじめ、役付の上級武士から参勤できた下級武士、また雇われた女中、下女、仲間、折助まで数えらると大人数がいる。これらへの食料と手当を出すのが蔵元である。幕府米を扱う札差同様、米相場を睨んで金でも払うから金融もやる。加賀百万石の蔵元であった辻金五郎は莫大な財産を持っていた筈である。

蔵の米は玄米である。これが蔵元や札差から実際に人手に渡る時は舂米屋を経て白米になる。舂米屋に不景気がある筈がない。茅野茂兵衛も金持であった。

だから大倉喜八郎や西村勝三のような事業家や多くの町人地主を社中に加えることができたのであり、一万坪の空地を買うことも、1千坪の校舎を建てることも簡単にできたのである。

こうして、明治5年に共立学校は創立した。旧大名の子供達が入学して順調に辿り出したが、1877年、コレラが蔓延し、佐野鼎がこれに罹ってあつけなく死んだため、開成学校は一たん閉鎖になった。次いで前回述べた高橋是清の登場となって再興し、その後、曲折をへて現在、私立開成中学・高等学校になっている。

[連載]

大阪府立商業学校の設立（3）

田中 智子

（しばらく間隔が空いたが、本紙第24・27号の続きであり、『大阪府教育百年史』第一巻の記述と、第三巻所収史料を参考にしている。）

さて（1）に述べたように、1884年10月20日、大阪府は「府立大阪商業講習所」の設置を文部卿に伺い出た。「種々事情も有之、未夕府立学校ト公称スベキ場合ニも不立至」状況であったが、この年一月に商業学校通則（文部省達第一号）が出されたので、この際、府立商業講習所に改めたいと考えた、ということであった。「設置ノ目的」は、「商業上必需ノ学科ヲ授ケ、其实技ヲ習熟、錬磨セシムル」こととされ、規則書と職制・事務章程が添えられた。

ところが、これに対する文部卿からの返答がなかなか来なかったため、11月22日、浜尾専門学務局長宛に、大阪府から照会がなされた。その折、10月に届け出た教則に関する弁明を試みており、商業学校通則と

の齟齬がネックとなって認可を得られずにいると想像したものと推測される。では、両者の違いはどこにあったのか。

まず商業学校通則であるが、これは全9章16条から成る規則であり、冒頭の第一章総則で、商業学校の性格を次のように定めている。まず、商業学校とは、この通則に従い「商の学業」を教授するところであるということ。次に、商業学校は第一種と第二種とに分けられ、第一種は、「主として躬ら善く商業を営むべき者を養成」するところ、第二種は、「主として善く商業を処理すべき者を養成」するところとされている。

第一種と第二種の授業科目を比べると、両者に共通するのが「修身」「習字」「簿記」「商業書信」「商業地理」「商品」「商業経済」「商業実習」であり、前者の「読書」「算術」が後者では「和漢文」「算数代数」となり、後者にしかないのが「図画」「商業史」「商事法規」「英

語」である。要するに、第二種の方がレベルが高いのであり、第一種が商業従事者に日用の学を授けるための、第二種が関連の各種専門家を養成するための学校ということになる。

第二種は「土地の情況」により、「銀行」「為替」「運輸」「保険」「会社法」「海上法」「契約法」「関税」「統計」「物理」「化学」「博物」「幾何」「機械」「工芸誌」を置いてよく、英語の代わりに、あるいは英語に加えて、フランス語・ドイツ語・中国語・朝鮮語を課してもよいことになっていた。これに対して、第一種も「土地の情況」に応じて科目を増設してよいのだが、それは「保険」「会社」「図画」「物理」、あるいは英語・フランス語・ドイツ語・中国語・朝鮮語のうちいずれ

かの語学とされていた。

ところが大阪府は、通則の指定とは異なり、第一種に「代数学」と「商業法規」を置いていた。「代数」を設けたのは、第一種卒業者のうち希望する者に対して、すぐに第二種編入の試験を実施するつもりがあるからであり、「商業法規」については、手形条例・証券印税規則など、日用の商業に必要な規則もあるからというのであった。

ところが文部省が引かかったのは、この学課上の違反ということではなかった。(以下続く)

[個人研究]

服部一三の海外出張（1）

鄭 賢 珠

29号に続いて直轄学校関係者の海外出張・留学の事例として服部一三（1851年山口生まれ。明治初期に海外留学を経験し、文部省や東京大学に奉職した後、岩手、広島、長崎、兵庫県の知事を歴任）の1884年11月から1886年1月における欧米出張を考察する。服部は、1884年12月に開かれた米国ニューオーリンズ万国工業博覧会に参加したのち、ヨーロッパで半年間（1885年7月11日ヨーロッパへ出発、翌年1月8日帰国）学事視察を行ったが、この件に関しては、『服部一三翁景伝』（勝田銀治郎編、1943年）という伝記に述べられているほか、伏谷聡が兵庫県公館県政資料館所蔵の「服部一三知事関係資料」（2007年1月寄贈、服部一三銅像1軀・書画軸7点・画冊2点、刊行物7点、写真35点・書簡類336点。伏谷聡「知事服部一三とその史料—兵庫県公館県政資料

館所蔵の服部一三知事関係資料について—『新兵庫県の歴史（1）』2009年3月）を紹介するなかで言及されている。

東京大学幹事兼農商務省御用掛の肩書で服部が経験した欧米出張の内容と位置づけについて、『服部一三翁景伝』と伏谷論文に述べられている記述と公文録などを照らし合わせて再考するが、分量上の問題で今号では派遣の経緯を中心に再考したい。

『服部一三翁景伝』には、「ニューオルレヤンス博覧会」という題で海外出張についての概略が述べられている。

「十七年十月に翌年米国ニューオルレヤンスに於て開設される万国工業兼綿百年期博覧会に事務官として差遣せらるゝ事となつた。之は主として伊藤、大木両参議の尽力によるものであつたが、翁

は単に文部省に於て文教上の逸材であられたのみならず、かゝる対外的の事務に関する材幹をも有せられ、行く所として可ならざる所なき、その才能を伊藤公以下に認められたからである。

而も翌十八年二月にはニューオルレヤンス博覧会終了後も学事取調の為、二ヶ年米国に滞在を命ぜられた。当時翁は三十五歳の働き盛りであつた」(40～41頁。以下下線は筆者)

また、伏谷氏は文部省時代の特徴的な出来事の一つとして、文部省に奉職していながら産業関係の職務を命ぜられていたとして次のように述べられている。

「中でも明治十七年(一八八四)アメリカニューオルリンズで開催された万国工業博覧会に派遣された。じつはこの博覧会期間中にラフカディオ・ハーン(小泉八雲)に初めて逢うことになるのである。右派遣をはじめ、産業関係の委員を度々引き受けている。こうした経験はおそらく、知事時代の一三が行う地方産業の政策に生かされていったことだろう」(前掲論文、59～60頁)

これらによると、服部の海外派遣経験の背景に伊藤博文、大木喬任の藩閥勢力の尽力があり、万国工業兼綿百年期博覧会の事務官になったことは対外的事務や産業関係業務に携える人材であったとして解釈されている。両方ともに、博覧会での業務が文教や文部省業務とは違う性格であったかのような位置づけをしていることには違和感を覚える。

服部が東京大学幹事兼農商務省御用掛として万国工業兼綿百年期博覧会に参加した費用は文部省予算から捻出されたことや、その派遣も博覧会開設の教育部に関連していたためである。

「東京大学幹事服部一三米国万国工業兼綿百年期博

覧会へ派遣ノ件農商務卿連署」という書類(明治十七年公文録官史進退文部省五六下)には服部の派遣について次のように記述されている。

「右文部農商務両省上請米国ウラルレヤンス府ニ於テ万国工業兼綿百年期博覧会開設ニ付教育部ニ対シ大学幹事服部一三事務官トシテ派遣ノ儀審査候処我カ教育上適応ノ物品ヲ出陳シテ彼ノ物品ニ交換イタシ其裨益ヲ求メ尚該会ニ際シ教育会議相開候ニ付米国事務官ヨリ我カ事務官ニ於テモ臨席希望ノ旨モ有之出品整頓学事緊急ノ事項取調等ノ為メ此際農商務御用掛兼勤派遣ノ儀教育上有益ノ儀ト被存候條御允許可相成哉相伺候也
追テ派遣ニ係ル一切ノ費用ハ文部省経費内ヲ以テ差繰支弁ノ儀ニ有之候

指令案

上請ノ趣聞届大学幹事服部一三へ相達候事

明治十七年十月廿五日」

この史料から、服部派遣の目的は①博覧会教育部出品物の管理、②教育会議参加、③学事緊急事項の取調べにあり、博覧会主催の米国側の事務官からの教育関係者臨席が希望され、服部が教育家として派遣されたことがわかる。だから、すべての経費は文部省が負担することにしたのである。

1884年の文部省年報ではこの博覧会に参加したことについて、「教育及ヒ授業、技芸ノ器具及ヒ方法ヲ以テ要目トス因リテ本省ハ亦我邦教育上ノ物品即チ図書器具類一千五百九十五箇ヲ出陳」したと概説されている(文部省第12年報、43頁)。人脈的な背景はともかく、この派遣は文部省業務の一線上にあったのである。

(以下続く)

[個人研究]

九州地区尋常中学校史料調査報告
(その1)

小宮山 道夫

前回東京大会にて報告したとおり、平成22年度科学研究費補助金「学校間接続関係の形成と近代教育政策の地方における受容過程に関する実証的研究」の助成に基づき、現在九州地区の尋常中学校資料の調査をすすめています。今年度は特に北部九州（福岡・佐賀・長崎）を中心に事前調査と現地調査を実施する予定で、その調査結果は11月20・21日に香川大学にて開催される中国四国教育学会にて報告します。

以下、福岡・佐賀地区の尋常中学校に起源を持つ高等学校に対して実施した事前調査結果を簡略ながら報告します。

【明善高等学校】

丸山猛副校長よりFAXにて下記のとおり回答あり。

標記お尋ねの件について調べてみましたのでお知らせします。本校の資料館に残っている資料では、明治25年の職員会議録が2冊あった以外は、尋常中学時代の史料は見あたりませんでした。

ただし、本校の正史「明善校九十年史」において、藩校としての創立からの歴史がある程度記されていますので申し添えます。また、参考までに本校教諭が旧制五高の史料に基づき当時の英語教育について考察した一文を添付します。

とあり、隈慶秀「112年前の「中學明善校英語科教

授法案」について—明治31年の尋常中学英語科カリキュラムより—を添付いただいた。(事前調査終了。可能であれば明治25年の職員会議録の閲覧を申請・実施する予定。)

【修猷館高等学校】

渡辺総括副校長より電話にて回答あり。資料は図書館に古い教科書と校友会誌を所蔵するのみ。金子堅太郎・広田弘毅が創設した校友会で明治25年の創刊。但し明治27年までは会員名簿のようなもので、会員の寄稿などはなく、そのような記事が出始めるのは明治30年頃とのこと。学校文書は戦災で消失したと思われる。唯一、初年度(明治18年)の成績簿が残っている。もし図書館等利用の際には、事前に渡辺又は和田副校長宛に連絡をください、との回答。

(事前調査終了。可能であれば初年度の学籍簿の閲覧を申請・実施する予定。)

【育徳館高等学校】

(2字下げの概略は同校HPより抄録。以下同様。)

1879(明治12)年9月9日、県立となり豊津中学校と改称する。1882(明治15)年8月23日、香春、小倉の二分校はそれぞれ独立して香春、小倉中学校と改称する。1887(明治20)年3月31日、勅令第15号中学校令改正により豊津中学校廃校(授業は継続)。1887(明治20)年5月5日、県立豊津尋常中学校として再建許可。(中略)2007年4月より現校名に変更。

電話にて回答あり。古い史料は「みやこ町歴史民族博物館」へ移管したとのこと。

福岡県京都みやこ町豊津 1122-13

TEL0930-33-4666 FAX0930-33-4667

同館へFAXにて照会するも、未だ返答無く、また、こちら営業時間中に電話をかけることができていない。(調査継続中。)

【佐賀西高等学校】

1876年(明治9年)佐賀変則中学校として開校(藩校弘道館跡に設立)。1883年(明治16年)佐賀県佐賀中学校と改称(6年修業)電話にて回答あり。明治期の史料の所蔵なし。どこかへ移管したという話も把握していないとのこと。

【唐津東中学校・高等学校】

1883(明治16)年佐賀県再置のため佐賀県立唐津中学校と改称。1884年県の財政難のため佐賀県立唐津中学校廃校。1887年学制改革で公立唐津高等小学校と改称し、農商学所を併置する。1888(明治21)年組合立唐津大成学校開校。5年制5学級(予科1年本科4年)。1893(明治26)年組合立唐津大成学校を大成校と改称。1895(明治28)年佐賀県立東松浦実科中学校開校。1896(明治29)年佐賀県尋常中学校唐津分校開校。

図書室担当主任の藤里教諭より電話回答あり。唐津中学校としては明治34年設立(6月佐賀県立唐津東中学校と改称。32年4月佐賀県立第三中学校として発足)のため、それ以前のものはない。それ以前の佐賀県尋常中学校唐津分校時代のもの等はない。

以上

[個人研究]

帝大寄宿舍に関する読売新聞記事

富岡 勝

明治期を含む読売新聞の記事がDVD化され、記事名から検索できるようになったのは、約10年前だったと思う。そのDVDを購入できなかったこともあって活用していなかったが、いつの間にか「ヨミダス歴史館」というインターネット上のサービス(有料)で利用できるようになっていたので、先日利用したところ、以下のような記事が見つかった。これだけでは信憑性が低すぎるが、他の情報源から裏付けがとれれば興味深い内容だと思う。

1888年8月10日付の記事で、帝国大学の寄宿舍建築に関する文部省内の二つの意見が紹介されてい

る。

記事後半で紹介されている「大学寄宿舍内組織ハ是非とも学生の自治となし西洋家内の生活法にせよとの命令」は、森有礼文相によるものかもしれない。そうだとすれば、森有礼が1888年ごろには取り締まり一辺倒ではなかったということになり、今泉朝雄氏が紹介しているように1888年初春の地方官会議において森有礼が師範学校生徒の「自炊」を推奨する旨の演説をしたということとも共通した動きとして理解できる。

また1888年頃に森文相が帝大の授業料大幅値上げ

方針をとっていたこととも符合しているだろう。

このままでは論文に使いづらいが惜しい史料である。

寄宿舎建築に付両極端説

数月前のことなり帝国大学宿舎を建築するに付き文部省中にて頗る巾のきく某氏より意見を提出していへる様全体学校の生徒の如きものに向つて勉強室と寝室と二つ室を設け置くハ贅沢の話なりそれよりハ天井の板を厚くし其隅に大なる穴を明け各室にハ一つハ梯子を備へ置きて夜になれば其穴に梯子を懸けごそハ天井の上にもぐりこみ蒲団をくるハと巻て寝れば別に寝巻を置くの必要なく且無用の天井も役に立ちお付けに各府県の学校に向つて質素儉約の手本を示す訳なれば是非

共左様致されよと真面目に言はれける故帝国大学の掛官も呆れて返辞も出来ざりしよりかゝる事のは行はる訳ハなき故辛うじて説き伏せられ安堵と思ふ時又もや同省にて最も勢力ある人より大学寄宿舎内組織ハ是非とも学生の自治となし西洋家内の生活法にせよとの命令ありし故掛官も熟考商議の上にて上申せられけるハお説の如く致せば学生一ヶ月の寄宿費少くも卅五円以上にも相成りとても学生にハ負担なり難き故此事計りハ思ひ止まり被下度様嘆願せしかバ公ハ大に笑れ何一ヶ月僅々卅五円とな実に安き事なるぞや其位の金も負担出来ざる学生ハ逐ひ出されよと固く執て動かれぬ故掛官も大に窮し種々陳述して漸くの事にて其説も見合せになる様になりたりと

[個人研究]

『官庁往復』（1899年）の目次（抄） — 帝国大学体制を考える手がかり —

谷本 宗生

本研究会では、主として高等中学校や帝国大学などをめぐる動きに注目しているが、なかでも「帝国大学体制」については究明していかなければならない研究課題であろう。帝国大学体制とは、帝国大学と帝国大学をめぐる諸制度とが国家体制と密接に関係を保ちながら、調整され構造化された枠組みであるという（『日本近代大学成立期における国家、学術体制ならびに大学の関連構造に関する研究』参照）。しかしながら、その実態についてはいまだ十分に解明されていない状況である。今回、もしやその有力な手がかりになるのではないかと思われる、帝国大

学側の公文書類の1つである『官庁往復』（1899年）を少し取り上げてみたい。従前『文部省往復』などが帝国大学の公文書類としては知られているが、文部省以外の他官庁との往復文書を綴った『官庁往復』も、重要な公文書史料の1つであると思われる。残念ながら、東京大学としてどのくらい『官庁往復』が現存するのか、いまだ十分には判明していない。もっか、東京大学に勤務する私のほうで把握する『官庁往復』は少ないながらも、帝国大学の幅広い国家体制のネットワーク像が垣間みえて、とても貴重な情報源であろう。なかでも、1899年の『官庁往復』

(縦28×横19cm)はその目次をみても、教育史・科学史研究者らを触発する内容をたぶんに含んでいるものと思われる。そこで以下に、その目次を抄録したい。

○ 明治三十二年 官庁往復 [目次抄]

一頁／海軍省医務、軍務両局長ヨリ軍医、造船、造兵、学生採用ニ付志願者ヨリ願書徴収取計方照会

二頁／陸軍省医務局長ヨリ医科大学医学科第一年生ノ内ヨリ陸軍衛生部依託学生一名採用ニ付志願者姓名等通報方照会

四頁／海軍省軍務局長ヨリ海軍造船学生ニシテ本年卒業スヘキ者四名ノ試験成績通報方照会

七頁／同省同局長ヨリ海軍造兵学生ニシテ各地出張ノ場合実見報告書提出スヘキ様各学生ヘ示達方照会

一一頁／陸軍省医務局長ヨリ陸軍衛生部依託学生中疾病等ニテ休学セン者ニシテ陸軍召募規則第六十条ニ該当スル者アル都度通報方照会

一二頁／大島陸軍砲兵中佐ヘ工科大学及理科大学陸軍砲工学生規程内定報知

一四頁／海軍省軍務局長ヘ海軍造兵学生志願者工科大学電気工学科第三年生多田重予選択通報並同局ヨリ身体検査施行ニ付本人出頭取計方依頼

一六頁／陸軍省医務局長ヘ陸軍獣医部依託学生志願者農科大学獣医学実科第三年生笠井小次郎外二名ノ願書送付並同局ヨリ身体検査施行ニ付本人本郷連隊区司令部ヘ出頭取計方照会

一八頁／海軍省医務局長ヨリ海軍軍医学生志願者、医科大学医学科第一年生小川龍外四名身体検査施行ニ付同局ヘ出頭取計方照会 (三件)

二一頁／同省軍務局長ヘ海軍造船学生及造兵学生志願者工科大学造船学科第一年生平賀譲外十一名選択通報並同局ヨリ身体検査施行ニ付本人出頭取計方照会且ツ採用ノ件

二九頁／同省同局長ヘ海軍造兵学生志願者工科大学学生田中龍三外三名ノ願書送付並同局ヨリ身体検査施行ニ付本人出頭取計方照会及右四名ノ内二名採用ノ件

三三頁／海軍省医務局長ヨリ海軍軍医学生志願者医科大学医学科第一年生田中俊太身体検査不合格ニ付採用セサル旨本人ヘ通達方照会

三四頁／同省同局長ヨリ海軍軍医学生志願者北川松之助身体検査不合格ニ付先ノ照会取消方照会

三五頁／同省軍務局長ヨリ海軍造船学生丸山庸二疾病ニ依リ同学生ヲ免シタル旨通牒

三七頁／同省医務局長ヨリ海軍軍医学生真板廉平同上

三八頁／陸軍省医務局長ヨリ陸軍衛生部依託学生志願者医科大学医学科第一年生山田基外三名採用ニ付本人同局ヘ出頭取計方照会 (三件)

四一頁／同省軍務局長ヨリ陸軍獣医部依託生徒志願者農科大学獣医学実科生笠井小次郎外二名同上

四二頁／同省医務局長ヨリ医科大学医学科第一年生山田基外一名ヘ陸軍衛生部依託学生ヲ命シタル旨通牒

四三頁／同省軍務局長ヨリ農科大学獣医学実科生笠井小次郎外二名ヘ陸軍獣医部依託生徒ヲ命シタル旨通知

四四頁／海軍省軍務局長ヨリ工科大学学生多田重予ヘ海軍造兵学生ニ採用辞令伝達方及誓約書等回付方照会

四六頁／陸軍省医務局長ヨリ休職陸軍一等軍医能勢
静太へ更ニ大学院入学ヲ命シタル旨通牒

[略]

五五頁／宮内省内事課長ヨリ法科大学教授一木喜徳
郎ノ帝室ニ関スル事項取調解囑通知

五六頁／農商務大臣秘書官ヨリ農科大学助手子安千
代松ヲ農事試験場技手ニ任用通知

[略]

五九頁／逋信大臣秘書官ヨリ本学書記渡邊鈴衛ヲ逋
信属ニ任用通牒

六〇頁／逋信省逋信局長ヨリ理科大学学生日下部四
郎太ニ電流ノ磁力計ニ及ホス影響取調補助囑託方
ニ付照会

六二頁／東京区裁判所判事ヨリ過失殺被告事件ニ付
鑑定ノ為メ適當ノ者東京馬車鉄道株式会社分社へ
出張取計方照会

[略]

七三頁／海軍次官ヨリ海軍少佐江頭安太郎ヲシテ法
科大学政治科諸講座傍聴差許方照会

七五頁／海軍省経理局長ヨリ海軍大主計内田小次郎
へ本学ニ於テ修学命セラレ本学年ヨリ参講方ニ付
照会

七六頁／海軍次官へ理科大学助手鳥居龍蔵千島群島
へ出張ニ付同島ニ航行ノ軍艦武蔵へ便乗差許方其
他ニ付照会

[略]

八三頁／海軍逋信兩次官及石川島造船所、芝浦製作
所長へ呉、横須賀各海軍造船廠、鉄道作業局神戸
工場外ニヶ所へ工科大学学生出張ノ節実習監督委
囑方ニ付照会

[略]

一〇〇頁／法典調査会第三部長ヨリ刑法起草ニ関シ
医科大学教授片山国嘉ノ意見参酌ノ為メ本人出頭
取計方照会

[略]

一二二頁／万世橋稅務署長ヨリ本年度所得稅調査上
本学職員雇員等ノ俸給給料月額十円以上ノ分住所
氏名取調方照会

[略]

一三六頁／農商務省農務局長ヨリ農科大学於テ蚕種
検査法施行細則第廿四条ニ依リ製造ノ原種成績報
告方照会

一四三頁／同省同局長ヨリ馬病仮性皮炎取締上ニ関
シ其方法協議ノ為メ農科大学教官ノ内一名出頭方
依頼

[略]

一四九頁／海軍省軍務局長ヨリ工科大学へ貸付セシ
軍艦水雷艇ノ凶面謄写保存ノ際水雷發射管ニ関ス
ルモノ其他秘密ニ属スル部分切抜焼却取計方照会

[略]

一五六頁／仏国巴里万国博覽會事務官長ヨリ同博覽
會ニ際シ工科大学教授真野文二へ依頼ノ件ニ付差
支ノ有無照会

[略]

以上の目次に挙げられてある個別事項については、
機会をあらためてまた言及していきたいと考えてい
る。本研究会では、今年度から科研費交付を取得し
た関係もあり、主として高等中学校をその研究対象
とするが、冒頭で触れたとおり「帝国大学体制」解
明の手がかりと思われるゆえ、こちらの史料も継続
して調査分析を進めていきたい。

[紹介]

「教育史研究用カードノート」の試み（その2）

富岡 勝

2004年11月10日のニューズレター9号に、「教育史研究用カードノート」について初めて書いた。それから約6年間経った。論文の生産性はそれほど向上していないが、研究のアイデアをひねり出す上で手書きノートは結構重宝している。史料を手で書き写しているだけで、新たな発見がある。本を読む際にも、何頁かノートに書き写すと著者の気持ちが少しわかったような気がして理解度が向上する。

ただし、根があきっぱいためか、毎年一度は新方式のノートを自分なりに考案して試行錯誤すること自体が趣味のようにになっている。試行錯誤の全てを書いていたらきりが無いが、今年3月にある文具メーカーのアイデアコンテストに応募したものを紹介したい。

教育史研究を進める上で、収集した史料の整理や、史料の読み込みは重要なので、手書きノートの記録内容は長期間にわたって活用している。スキャナーでパソコンに取り込んでノートパソコンに入れて置くと、気になったときにその場で確認できて

何度か助かった思いをしている。

スキャナーで取り込むためには、ノートの見開き毎にスキャンしてもよいが、時間がかかる。そこで現在ではルーズリーフやシステム手帳に筆記し、富士通のScanSnapというシートフィード方式のスキャナーで数十枚をまとめて取り込むようにしている。

しかし、ルーズリーフやシステム手帳の難点は、バインダーにはさんだ状態ではリングが邪魔になって左頁が非常に書きづらい点である。右頁だけに記入するのは、どうも紙の減りが速すぎるし、バインダーもすぐ分厚くなってしまふので、左頁も使いたい。そこで考案したのが以下のような方法である。「書き味」「持ち運び」「パソコンとの連携」のバランスがとれた方法だと思ひ、それなりに自信をもって応募したが、そのメーカーには採用されなかった。もし教育史研究その他に使ってみようという方がいらっしゃったら、ぜひ感想をお聞かせ願いたい。

———文具メーカーへの応募アイデア（落選）———

テーマ「左頁が使いやすい筆記用バインダー」

日頃、メモ用にパイプサイズ6穴のシステム手帳を利用していますが、リングが邪魔になって左頁に記入するのが困難です。そこで、6本のリングのうち、上下1本ずつを残し、中間の4本をなくしてしまうアイデアを思いつきました。こうすれば、左頁が快適に記入できます。プラスチック製リングのバインダーを改造して、3ヶ月間テストしました（写真1）が、リ

ング2本にすることでリフィルが破れてしまうことはほとんどありませんでした。また、リング2本のバインダーは「筆記用」と割り切っておき、保存用には通常のリングのバインダーを利用する、という使い分けも可能です。リフィルは従来の6穴タイプをそのまま利用します。

プラスチックリングなら個人でも折り取ることが可能です

が、金属リングはきれいに安全にカットすることが難しいので、金属リングの2本リングタイプのバインダーをぜひ商品化してください。

なお、このアイデアはルーズリーフでも可能です (写真2)。

この場合は、リングを上下2本程度ずつにしても快適に筆記できます。ルーズリーフで採用していただいても結構です。バインダーの左頁に快適に筆記したいというニーズは高いと思われるので、ぜひともご採用お願いいたします。



写真1 (バイブルサイズのシステム手帳を改造)



写真2 (A5ルーズリーフを改造)

[お知らせ]

- ・ニューズレター32号の締切日は、2010年12月31日(金曜日)です。よろしくお願いたします。

「1880年代教育史研究会」ニューズレター 第31号 2010年10月15日発行
<研究会連絡先> 富岡勝 「1880年代教育史研究会」事務局 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学教職教育部 富岡勝研究室 気付 E-mail: tomiokamasa@kindai.ac.jp
<HP> http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/1880/
<原稿送付先> 鄭 賢珠 〒606-8172 京都市左京区一乗寺河原田町37-1-413 E-mail: hyunjjung4@hotmail.com